

地域社会とのコミュニケーション

地域社会とのつながりを大切に、清掃活動を実施するとともに、地域の諸団体への協賛や地域イベントへの参加など地域活性化に努めています。また、展示会や交流会にも積極的に参加し、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを図っています。

工場周辺や地域の清掃活動

当社は、地域環境美化および社会貢献を目的に工場周辺道路沿いの清掃活動を継続的に行っています。2017年10月に実施した清掃活動には、当社の全部署と関係会社および協力会社合わせて約40名が参加しました。



地域の清掃活動

ニッケル4社 環境・安全交流会の開催

当社は、他の国内ニッケル企業3社とともに、環境・安全に関わる問題点について情報共有を行うことを目的に、「環境・安全交流会」を2009年に発足させました。

2017年度は、日本冶金工業（株）大江山製造所（京都府）で開催し、「老朽設備と災害発生について」、「機械（設備）と人の分離状況について」など、社会的トピックを中心に各社の取り組みを共有し、議論しました。

この交流会に参加することにより、ニッケル製造業に共通する環境・安全を含む課題の解決に向けた各社の動向や取り組み事例などを共有できるため、非常に有意義なコミュニケーションの場となっています。

展示会などへの参加

〈第10回青森土木フォーラム〉

2017年10月24日～11月13日に、イオンスーパーセンター十和田店（十和田市）、八戸ポータルミュージアム はっち（八戸市）にて「第10回青森土木フォーラム」が開催され、当社路盤材の施工実績に関するポスターを出展しました。当フォーラムは、青森県民の土木



第10回青森土木フォーラム

工学・土木事業の理解を深めることを目的とし、八戸工業大学を中心として産学官が連携した展示会です。

〈八戸みなと88カ所巡り〉

2017年8月、八戸市が主催する「八戸みなと88カ所巡り」に出展しました。これは、市制施行88周年記念事業の一環で、八戸港には岸壁や防波堤などが88カ所あることから、市民の皆様にも「みなと」に触れてもらうきっかけとした企画です。当社が臨海地域に立地していることから、パネル、製品サンプル等を展示しました。当日は、400名以上の来場者があり、市民の皆様にも当社を知っていただく良い機会となりました。



八戸みなと88カ所巡り

もったいない・あおり県民運動10周年記念大会

地球温暖化問題の課題解決に向け、「もったいない」を合い言葉に3Rや省エネなどに県民総参加で取り組む「もったいない・あおり県民運動」が10周年を迎えました。

当社は、生産工程における省エネ化や副産物の再資源化等環境対策を積極的に進めるとともに、県内市町村で発生する廃棄物のリサイクルや近隣の複数社相互で廃棄物を資源として有効活用するなど、地域のゼロエミッションに貢献しています。また、地域の清掃活動や八戸工場大学アートプロジェクトに取り組んだことが評価され、「もったいない・あおり賞」を受賞しました。



もったいない・あおり賞表彰状
表彰式の様子
(左：三村申吾青森県知事)



大平洋金属の歩み

1949	日本曹達株式会社の鉄鋼部門より分離独立し、日曹製鋼株式会社として発足
1952	東京証券取引所、大阪証券取引所に上場
1954	新発田工場の砂鉄銑設備をフェロニッケル製錬設備に転換
1957	八戸工場完成、砂鉄銑の製造開始
1959	フェロニッケル製錬を専業とする大平洋ニッケル株式会社設立に伴い、新発田工場を分離
1965	八戸工場の銑鉄生産設備の一部を合金鉄およびフェロニッケル製錬用に転換、フェロマンガンに続いて、1966年にはフェロニッケル、1968年にはステンレス鋼の生産を開始する。1969年に2.5万KVA、1970年に4万KVAの大型電気炉2基を設置し、フェロニッケルの生産を増強
1970	大平洋ニッケル株式会社を吸収合併し、大平洋金属株式会社に社名変更 フェロニッケルのトップメーカーとしての基盤を確立
1972	インドネシア・アネカタンバン社フェロニッケル製錬工場建設の技術援助契約締結（アンタム計画） 公害防止管理者水質関係第一種資格の当社社員初取得
1973	フィリピンのリオ・チュバ・ニッケル鉱山（株）に資本参加し、ニッケル鉱山を開発
1974	テレメータシステム協定締結 公害防止管理者大気関係第一種資格の当社社員初取得
1978	公害防止協定締結
1980	産業廃棄物処分業許可
1983	岩瀬工場を分離し、大平洋ランダム（株）に研削材部門を営業譲渡
1984	直江津、富山、習志野工場を分離し、鋳鋼、鍛鋼、機械部門をそれぞれ大平洋特殊鋳造（株）、大平洋製鋼（株）、大平洋機工（株）に営業譲渡
1985	八戸工場を八戸製造所に改称
1992	一般・産業廃棄物最終処分場設置
1993	産業廃棄物技術管理士資格の当社社員初取得
1995	八戸製造所にフェロニッケル製錬電気炉6万KVA設置、3炉体制確立

1996	八戸港河原木第2埠頭完成（公共）
1997	（株）大平洋エネルギーセンターを設立 原料輸送コンベアライン設備完成（河原木）
1998	ISO9002認証登録
1999	本社機構を八戸に移転しフェロニッケル専業メーカーになる 環境計量証明事業の登録
2000	（株）大平洋エネルギーセンターの北沼発電所が電力供給開始
2003	リサイクル事業の「焼灰・ホタテ貝殻リサイクル施設」完成 ISO9001:2000に移行
2005	フェロニッケル 100万トン生産達成 青森県環境影響評価条例に伴う環境アセスメントを実施 特別管理産業廃棄物処分業許可
2006	フェロニッケル製造ライン増強工事完了 リサイクル事業の「溶融飛灰リサイクル施設」完成 島守一般・産業廃棄物最終処分場廃止 第二発電所脱硝装置設置
2007	全排水溝へ排水モニター設置 排水口の一部に小規模排水処理装置を設置
2008	フィリピン事務所 開所 ジャカルタ事務所 開所
2009	ISO14001:2004認証登録 湿式パイロットプラント設備 完成 フェロニッケル製造ライン増強工事完了
2010	鉱石ヤードへのダストモニター設置
2011	廃棄物処理状況のホームページ公開 排水口、煙突監視カメラの設置
2012	OHSAS18001:2007認証登録
2013	排水終末処理施設運転開始
2014	統合マネジメントシステム運用開始

編集後記



品質・環境管理室長
高橋 直樹

環境報告書の初刊は東日本大震災1年後の2012年であり、心身ともに慌ただしさの残る時期でした。当時、社内では環境報告書を発行することに理解が得にくく、もどかしさを感じていました。そのため、初刊の目的は、社会に対する環境活動の公開以上に、環境教育教材として用い、社員の意識を向上することを強調しました。その様な経緯で発行となりましたが、発行から数年後、思いがけない出来事がありました。例年の環境報告書発行にあたり、社員に担当業務のインタビューをした時のことです。その社員の入社理由は、環境報告書を見たことがきっかけだったそうです。環境報告書の内容に興味を持ち、それが会社への興味につながり、そして入社に至ったとのことでした。編集者としては、望外の喜びでした。「これからも魅力ある報告書を作っていかなければならない。魅力ある報告書を作り続けるには、魅力ある会社であり続けなければならない」と感じました。これからも社会の動きを取り入れながら、より良い報告書にしていきたいと考えています。